

## 高齢社会における持続可能なコミュニティ交通を考える Sustainable Community Transport in the Ageing Society

科目提供大学名	関西学院大学
担当教員	大和 三重（人間福祉学部 社会福祉学科 教授）他 8 名
単位数	2 単位
最大授業定員	30 名
開講学期	後期 2 時限（13：20～14：50）金曜日（9月27日～1月17日、12月25日～1月7日は冬休み期間）
成績評価	出席状況、授業参加態度
テキスト	特になし
参考文献	授業時に提示
授業以外の学習方法	図書館・webによる資料検索
その他の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回、質疑応答やディスカッションの時間を作り、双方向の授業を展開する。</li> <li>・ フィールドワークについては、授業開始後、受講生の皆様方と日程調整させていただきます。なお、現地への交通費は自己負担です。</li> </ul>
講義概要	<p>この講座では前後半で「実態編」と「実践編」に分けて実施します。前半の実態編では、高齢社会におけるコミュニティ交通をめぐる政策的・実践的課題について学び、フィールドワークに向けた基礎知識を習得しながら論点整理を図っていきます。後半の実践編では、実際に西宮市でコミュニティ交通を実践する地域へのフィールドワークを行い、現場の声を聞きながら、コミュニティ交通を持続可能な取り組みとしていくための制度・政策のあり方や、主体間の協働・共創のあり方を考えていきます。最後に、実態と実践で学んだことをふまえて、行政や事業者、地域に対してプレゼンテーションを実施し、フィードバックをもらいながら、より良いコミュニティ交通のあり方に関する提言を導き出します。</p>
到達目標	<p>西宮市をフィールドとして、コミュニティ交通に関する課題を受講生自らが発見し、講師や住民、行政担当者との対話を重ねていきます。またコミュニティ交通を導入している市内数地区へのフィールドワークを通じて、課題の緩和・改善・解決に向けた提言を導き出すことを目指します。</p>
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢社会における外出支援の必要性（大和 三重）</li> <li>2. 高齢者の移動手段の確保に向けたモビリティ（大谷大学 野村 実）</li> <li>3. 地域公共交通活性化に向けた課題（龍谷大学 井上 学）</li> <li>4. 交・流・通からみた交通まちづくり（近畿大学 高橋 愛典）</li> <li>5. 持続可能な交通インフラと交通政策（桃山学院大学 西藤 真一）</li> <li>6. 地域公共交通の維持策と生活交通の役割（桃山学院大学 福田 晴仁）</li> <li>7. 暮らしのモビリティを考える（佐賀県（地域おこし協力隊）木村 瑠々花）</li> <li>8. 西宮市におけるコミュニティ交通の現状と課題（西宮市交通政策課）</li> </ol>

- |                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| 9. フィールドワークに向けた事前学習           | (大谷大学 野村 実)             |
| 10. 西宮市におけるコミュニティ交通のこれまでとこれから | (中央復建コンサルタンツ株式会社 山室 良徳) |
| 11. フィールドワーク                  | (大谷大学 野村 実)             |
| 12. フィールドワーク                  | (大谷大学 野村 実)             |
| 13. 意見交換会                     | (西宮市交通政策課)              |
| 14. 提案・提言作成                   | (大谷大学 野村 実)             |
| 15. プレゼンテーションと講評              | (大和 三重・大谷大学 野村 実)       |

「高齢社会における持続可能なコミュニティ交通を考える」



【代表】大和 三重（人間福祉学部 社会福祉学科 教授）

1. 三重県に生まれ、神戸市で育ちました。ソーシャルワークをベースに高齢者福祉、地域包括ケア、介護人材の定着と確保、福祉 NPO などの研究をしています。主な著書に “ The Voluntary and Non - Profit Sector in Japan : The challenge of change ”（共著：RoutledgeCurzon 2003 年）、『介護人材の定着促進に向けて－職務満足度の影響を探る－』（単著：関西学院大学出版 2014 年）、『高齢者福祉』（共編著：ミネルヴァ書房 2020 年）などがあります。
2. アメリカの大学院に留学する際、恩師から高齢者分野の研究を勧められたのがきっかけとなり、高齢者の福祉や余暇等の生きがいについても研究することになりました。超高齢社会を迎えた日本では様々な課題が指摘されていますが、先入観や偏見で高齢者を捉えるのではなく、尊厳ある個人として受け止めることのできる社会が理想です。そのための意識変容や環境づくりに尽力することをライフワークにしたいと思っています。
3. 講義では、学識経験者やコンサルタント、地域おこし協力隊という様々な立場から地域公共交通の現場に関わる方々を講師として招き、生活（くらし）やまちづくり、インフラなどの視点からコミュニティ交通について考えていきます。また、西宮市をフィールドとして、コミュニティ交通に関する課題を受講生自らが発見し、課題の緩和・改善・解決の方策を導き出すことを目指します。
4. 地域の「くらしの足」をめぐる、大変重要な局面をいま迎えています。バスやタクシーの運転手不足による公共交通インフラの崩壊がある一方で、高齢になっても運転免許を手放せない人々もいます。これらの問題はどのような構造のもとで起きているのでしょうか。また、課題解決に向けてどのような方策があるのでしょうか。現場の最前線で関わる講師陣と、西宮市をフィールドにして、一緒に考えてみましょう。



野村 実（大谷大学）

1. 1990 年、兵庫県宝塚市生まれ。「誰も移動に困らない地域社会を作るには？」を問いとして、官民・市民の連携によるモビリティ確保の方策について、社会学の視座から調査研究をしています。主要著書（単著）：『クルマ社会の地域公共交通』（晃洋書房 2019 年）／（共著）／『モビリティと地方創生』（晃洋書房 2021 年）／『公益事業の再構築』（関西学院大学出版会 2023 年）
  2. 学生時代に所属していた地域福祉のゼミや講義で、コミュニティにおける買い物弱者や移動困難者の問題について知る機会があり、これらの地域課題に興味を持ったことが研究を始めるきっかけの一つでした。運転手不足やサービス維持が困難な状況にある地域公共交通分野ではありますが、住民や自治体、事業者などの多様な立場の方々との対話を通じて解決策を導き出そうとする点は、大変ですが魅力の一つともいえます。
- 3・4. 同上